



China

新しい眼で見る中国-その1 “大自然”、“古文明”

中国駐東京観光代表処

日中平和友好条約締結40周年にあたる2018年、中国駐東京観光代表処では「新しい眼で見る中国」と題し、“大自然”、“古文明”、“三国志”、“西遊記”、“癒し”という5つの視点で中国の魅力を紹介いたします。

今回は、テーマを“大自然”、“古文明”に絞り、その中の代表的なスポットをご紹介します。



大自然の代表的なスポット

中国の東北地区、内モンゴル、黒龍江、吉林、遼寧の四つの省と自治区では、日本では決して目にする事の出来ない川、草原、雪原、森林などの手つかずの「大自然」がおすすめです。



長白天池 (吉林省)

中国と北朝鮮の国境を隔てる天山の頂上にある火山の噴火湖。山全体が自然保護区となっており、春と夏には花が咲き乱れ、滝など見どころも多いのでトレッキングに最適。



金石灘海濱 (遼寧省)

大連市金州区東南・黄海にある海岸は、中国北方を代表するリゾート地として知られる。



バダインジャラン砂漠 (内モンゴル自治区)

自治区最西端のアラシヤン盟から甘粛省にかけて広がる中国で3番目に大きい砂漠。



ハルビン氷雪祭 (黒龍江省)

毎年1月5日から2月5日まで開催される「世界3大雪まつり」の一つ。市内を中心にいたるところで催しが行われる。



チンギスハン陵墓 (内モンゴル自治区)

オールドス市にある12世紀頃のモンゴル族首領・チンギスハンの陵墓。モンゴル族の住居パオの形をした3つの大殿からなり、中央が記念堂、後方にはチンギスハン夫妻の柩が安置されている。



長春浄月淵風景名勝区 (吉林省)

長春市浄月観光経済開発区に位置する美しい公園。

古文明の代表的なスポット

中国の中原地区と呼ばれるのは、北京、天津、河北、河南、山東、山西、安徽の七つの省と都市。中原とは黄河の中流と下流地域の平原で、中華文明発祥の地といわれています。17もの世界遺産があるなど、中国の古代文明遺跡や文物が最も集中する場所としても知られています。



春秋楼 (河南省)

許昌市建設路春秋広場に位置する曹操(魏武帝 紀元155~220年)が関羽に与えた邸宅。関羽が徹夜で「春秋」を読んでいた場所であることが名称の由来。



黄山 宏村月沼 (安徽省)

安徽省南部の黄山市の宏村は、中国古代農村の面影を残す村。村内に張り巡らされている水路は、牛の姿をかたどって設計されている。「月沼」からの光景は絶好のスポット。西遞村とともに世界文化遺産に登録されている。



泰山 十八盤 (山東省)

山東省中部に位置する莊巖で神聖な「泰山」は、中国五岳の筆頭格の山。中天門と南天門の間の後半にあたる「十八盤」は、1633段の石段が続く難所。世界自然遺産&世界文化遺産。



龍門石窟 (河南省)

北魏の孝文帝時代(471~499年)に掘削が始められ400年以上かけ完成した中国3大石窟の一つ。東西を山に挟まれた断崖絶壁に南北1kmにわたり10万體余りの仏像が保存されている。世界文化遺産。



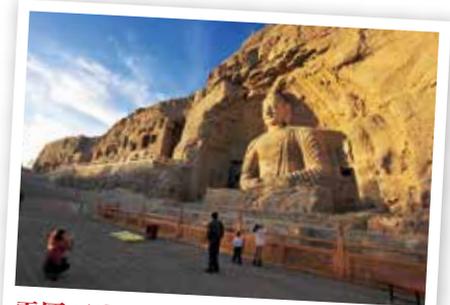
天壇 (北京市)

明永楽18年(1420年)に造営され、明と清、歴代皇帝が毎年天地の神を祀り五穀豊穡を祈った祭祀の場。世界文化遺産。



明の十三陵 (北京市)

北京市中心から約50km、昌平区北部の天寿山南麓に位置する明代13人の皇帝の陵墓の総称。世界文化遺産。

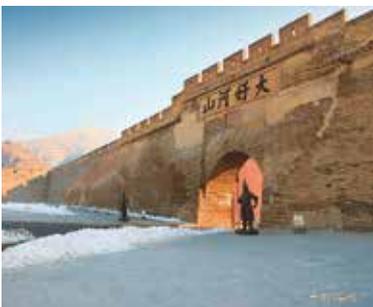


雲岡石窟 (山西省)

大同市の西16kmの武周山の南側東西約1kmにわたって彫られた石窟群。約1500年以上の歴史があり中国古代仏像彫刻芸術早期の代表作として知られる。現存する石窟数は252窟、大小仏像は5万體を越す。世界文化遺産。

河北省

世界文化遺産「万里の長城」は、見る場所によってその光景も様々。以下は、主要なみどころ。



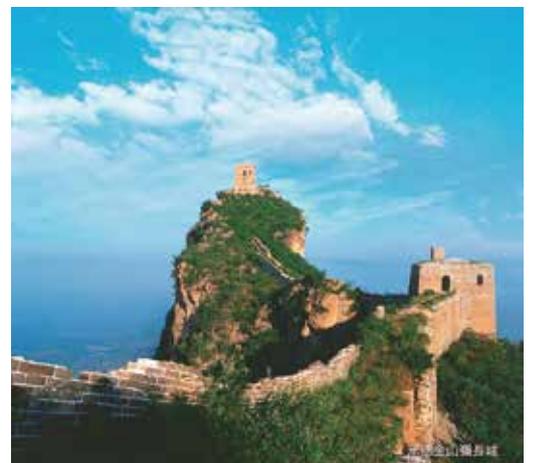
大境門長城

張家口の北部に位置する石造りのアーチ形の門。大境門長城の入口には「山河好大」と大きく書かれている。



張家口鷄鳴驛

鷄鳴山の麓、張家口と北京を結ぶ幹線道路沿いに位置する古城。別名「鷄鳴古城」。



承德金山嶺長城

東は望京楼から西は竜峪口まで全長約20km。文字磚(レンガ)、障壁、控馬牆(馬を防ぐための塀)、麒麟影壁(目隠し)の4つが見どころ。



草原天路

全長約132km、張家口と崇礼県を結ぶ道路。道両側の景色が美しいことで知られる。